

第1回岩手県地域公共交通活性化協議会沿岸地域部会 議事要旨

1 日時

平成30年4月13日（金） 14:00～16:00

2 場所

宮古市（宮古地区合同庁舎 1階 第2会議室）

3 主な議事内容

- (1) 岩手県公共交通活性化協議会の取りまとめについて
- (2) 地域公共交通網形成計画について
- (3) 今後の進め方について

4 主なご意見等

- (1) 岩手県地域公共交通活性化検討会議の取りまとめについて
 - ・ ハード面やソフト面の整備と共に、モビリティマネジメントも重要。
 - ・ 八戸市のようにバスの乗り方教室から観光モデルコースの提示まで、丁寧に細部まで入り込む必要あり。
 - ・ 現在被災地特例等を活用しているコミュニティバスの再編について、接続場所が課題。
 - ・ 再編により乗り継ぎが必要となる場合、待合室の整備も必要。
 - ・ 復興の途上であり、まちづくりが流動的な中で、どうやって交通網を作っていくかが課題。
 - ・ バス停まで歩くことが困難な高齢者向けの施策として、タクシー補助やデマンドタクシーが考えられるが、より効率的な手法を検討する必要あり。
 - ・ ドライバー不足によりタクシーも不足している状況を踏まえた検討が必要。
 - ・ 特に山間部の地域では、さらなる効率化は難しい状況。交通の確保には、自助共助の考え方を取り入れる必要あり。
- (2) 地域公共交通網形成計画について
 - ・ 県の網形成計画の策定は、計画を策定済み及び今後策定予定の市町村に対してどのように影響するのか。
⇒（事務局）市町村で策定済みの場合は、県が整合性を図る必要あり。今後策定する市町村は、県と整合性を図る必要あり。
 - ・ 県のマスタープランは、具体的な計画を策定せずに地域内交通を確保して

いる市町村にどのような影響を与えるのか。

⇒（事務局）計画を策定していない市町村は、県の網形成計画に基づく方向性で取り組む必要あり。強制力はないが、地域別部会に全市町村が参加しており、計画の方向性は了解を得たものとして進める。

（3）今後の進め方について

- ・ 岩手県交通と岩手県北自動車のバスの乗り換え場所が山田町となっているが、交通結節点を県の計画で定めてほしい。
- ・ 被災地特例の終了を想定して、鉄道とバスが競合しない住み分けを検討していく必要あり。
- ・ 今後のスケジュールについて、調査や議論が本格的に始まると時間が予想以上に必要となる場合もあるため、もう少し弾力的に進めてもいい。
- ・ ICカードやバスロケに対する設備投資は、一事業者や一市町村など単独では難しいため、計画に取り入れてほしい。
- ・ 幹線系統については責任を持って運行したいと考えているが、そこから先は結節点で乗り換えるなど、利用実態を見ながら進めていきたい。
- ・ ただ路線を減らすだけでなく、バスロケの拡大や路線の検索システムの導入等も随時進めていきたい。
- ・ 市町村が既に作成している網形成計画と、どうしても整合性が取れない可能性もあるが、その場合の対応はどうするのか。

⇒（事務局）基本的には市町村で作成済みの計画に合わせるが、調整する場合もあり得る。

- ・ 市町村の網形成計画よりも、県の網形成計画が上位計画となるのか、それとも横並びの計画となるのか。

⇒（事務局）「上・下」の関係ではないが、互いに整合性を図る必要あり。